

公益財団法人 益富地学会館
令和元年度事業報告書
(自平成31年4月1日 至令和2年3月31日)

[公益目的事業]

公1 地学関連資料を展示する博物館の運営と地学の振興を目的とする啓発活動および教育普及活動

(1) 趣旨 (目的)

地学及び地球科学の振興を目的として、博物館類似施設の運営とそれに付帯する普及活動や研究を行う。具体的には、鉱物、岩石、化石など地学に関連する標本及び文献等を収集、整理、分類し一般に展示公開する。また、一般を対象とした印刷物等の出版や講座の実施、教育普及活動、研究奨励、インターネットを利用した情報の発信、各地の博物館、学校、教育施設等に対する支援事業を行うことを通じて地学の振興を目指す。

(2) 事業内容

ア 博物館の運営

【標本展示室の公開】

事業内容：益富地学会館の3階を鉱物、岩石、化石や地球科学に関する資料の展示室として、広く一般に公開。公開は、土曜日・日曜日・祝日の午前10時から午後4時で、公開時間中は展示室指導員が常駐し、見学者の相談・指導にあたる。展示室の見学料は一般300円、18歳以下は無料。平成31年4月1日～令和2年3月31日に入館者は約2400名(有料入館者のべ1256名)。

企画展示『京都府木津川市木津川のかわらの石』(令和元年5月～平成元年10月)、
『京都市大文字山の地学ガイド』(令和元年5月～平成2年3月)、
『第27回益富地学賞受賞作品展』(令和元年5月～令和2年3月)を実施。

【当館所蔵標本の整理、分類】

事業内容：鉱物、岩石、化石等、地学に関連する標本を収集、分類、整理し、研究ならびに教育・普及に役立てる。収集した資料は益富地学会館の収蔵室で保管し、その一部については益富地学会館3階の展示室で一般に展示公開。

【図書及び文献の整理、分類】

事業内容：地学や地球科学に関連する図書および文献全般を対象に収集、分類、整理し、研究ならびに教育・普及に役立てる。収集した資料は、益富地学会館2階の図書室ならびに研究室に収蔵して公開。

【地学に関する調査ならびに研究】

事業内容：収集した鉱物、岩石、化石その他の資料を活用し、地学に関する調査や研究を行う。研究には主に益富地学会館の設備、器具、分析機器を活用し、当法人が地学の振興を目的として発行する啓発誌(『益富地学会館館報』、『地学研究』)、学会誌、学会発表などの場で広く一般に公表した。

<論文・報告書・出版物 等>

1. 日本鉱物科学会 編；土山 明・宮島宏・辻森樹・下林典正・長瀬敏郎・今井裕之・豊 遙秋・坂野靖行・土屋信高・石橋 隆・鈴木正哉・西本昌司 (2019) 日本の国石「ひすい」—バラエティーに富んだ鉱物の国. 272 総頁, 成山堂書店, 東京. (分担執筆)
2. 石橋 隆・澤田 操・伊藤 謙・朝倉顯爾・宮島 宏・橋爪節也・半田直人・土山 明・佐々木晶・寺田健太郎 (2019) 鉱物 —石への探究がもたらす文明と文化の発展—. 96 総頁, 大阪大学出版会, 大阪. (編著/分担執筆) ほかに3件。

<学会発表等>

1. 石橋 隆・山本佳弘・光田英彦・下林典正・渡部 茜・藤原 卓 (2019) 鳥取県日南町日野上鉱山産のクインティン石 (Quintinite). 日本鉱物科学会 2019 年年会, 九州大学伊都キャンパス, 福岡 (9月)
2. 白勢洋平・下林典正・高谷真樹・石橋 隆・豊 遙秋 (2019) 京都大学の鉱物標本—比企鉱物標本—. 日本鉱物科学会 2019 年年会, 九州大学伊都キャンパス, 福岡 (9月)
3. 石橋 隆・松味智晃・樋口 蓮・山本由樹・島田圭吾・森本浩友・島田 努・朝倉顯爾 (2019) 東京都伊豆諸島八丈島の三原山東側斜面にみられる甌穴(ポットホール)群とその成因. 日本地球惑星科学連合大会, 幕張メッセ, 千葉 (5月) ほかに3件。

イ 地学に関する知識の普及や啓発を目的とした事業

【講座や研修会等の開催】

事業内容：地学の振興を目的として、次の教育普及事業を実施。

(a) 講座・セミナー等

1. 地学講座

令和元年 6 月 22 日(土)、『地学サロン』。於 益富地学会館、参加者約 20 名。

令和元年 6 月 23 日(日)、『楽しい鉱物実習講座』、午前・午後 2 回実施。於 益富地学会館、参加者合計 30 名。

令和元年 8 月 31 日(土)、『地学サロン』。於 益富地学会館、参加者約 30 名。

令和元年 11 月 23 日(土・祝)、『石ふしぎゼミ』。於 益富地学会館、参加者約 30 名。

令和 2 年 3 月 29 日(日)、『鉱物標本観察学習会』。於 益富地学会館、新型コロナウイルス拡大防止のため中止。

2. 石を楽しむ新春交流会

令和 2 年 1 月 19 日(日)、於 京都市勧業館・みやこめっせ 特別展示場
会員や一般参加者の交流会と講演会を実施。参加者約 160 名。

『全国アマチュア団体リスト 2020』を発行、参加者に配布。

講演会

『京都の街で石めぐり』：西本昌司 (名古屋科学館主任学芸員)

『茨城県地学巡検レポート』：藤原 卓 (益富地学会館上席主任研究員)

『日本産の新鉱物・新産鉱物 2020 新春』：松原 聰 (国立科学博物館名誉研究員)

(b) 野外活動や実地調査・作業に重点をおいた体験型の研修会

1. 野外研修会

平成 31 年 4 月 7 日(日)、『徳島県吉野川市で変成岩と鉱物の観察会』、参加者 37 名。
令和元年 5 月 12 日(日)、『京都市大文字山・如意ヶ岳地学研修会』、参加者 33 名。
令和元年 5 月 26 日(日)、『京都府木津川 かわらの石観察研究会』、参加者約 200 名。
令和元年 9 月 8 日(日)、『岐阜県・愛知県境の木曾川で地質観察会』、参加者 35 名。
令和元年 10 月 27 日(日)、『桂川でかわらの石観察研究会』(きょうと地域創生府民
会議協賛事業)、参加者約 100 名。
令和 2 年 2 月 2 日(日)、『和歌山県白浜町で地質地層観察会』、参加者 39 名。
令和 2 年 3 月 22 日(日)、『群馬県下仁田方面鉱物野外観察会』、新型コロナウイルス
拡大防止のため中止。

2. 岩石薄片教室

令和元年 7 月 13 日(土)、『偏光顕微鏡の見方教室』、於 益富地学会館、参加者 8 名。
令和元年 7 月 14 日(日)・15 日(月・祝)、『薄片作製教室』、於 益富地学会館、参加者
15 名。

3. 化石クリーニング教室

令和 2 年 2 月 23 日(日)、於 益富地学会館、参加者 14 名。

(c) 地学巡検旅行

令和元年 11 月 2 日(土)～4 日(月・祝)、『茨城地学巡検』、参加者 25 名。

【青少年を対象とした地学教育普及活動】

事業内容：夏休みの期間中などにおいて、児童や生徒、青少年を対象とした講座や教育普及活動を実施。

(a) 石に名前をつける会

小中学生を対象とした岩石、鉱物、化石の同定会を実施。

令和元年 8 月 10 日(日)、於 益富地学会館、参加者 48 名。

【地学に関する普及啓発事業】

事業内容：主に博物館を利用する一般の方を対象に、地学の知識習得の機会を拡充し、地学の振興に資することで公益に寄与することを目的として、次の事業を実施。

(a) 『益富地学会館 館報』の発行

毎月 1 日発行。内容は当館の行事案内、入手標本・図書等の解説・紹介、行事記録、地学関連ニュースの解説、地学解説記事など。発行部数 600 部。各地の博物館や研究機関、マスコミ、益富地学会館会員などに送付した。

(b) 益富地学会館 web サイトの運営

広く一般に対して地学に関する有用な情報を提供することを目的にホームページを設け運用を行う。当館の紹介、行事案内、地学に関する情報を提供した。

(c) その他の普及啓発事業

当博物館の事業に関心のある者は会員登録を行うことにより、当博物館が実施する地学普及事業等を利用しやすくなる事業を実施。会員登録については、制限がなく、希望者は規定の年会費で誰でも登録可能である。年会費は、一般会員 6,000 円、特別会員 10,000 円、ジュニア会員(満 18 歳未満)：3,000 円、家族会員：1 名 1,000 円。会員には『益富地学会館 館報』が送付されるほか、益富地学会館の入館料免除、施設利

用やイベント参加費用の割引などのサービスを実施。

令和元年度末現在、一般会員 502 名、特別会員 55 名、ジュニア会員 22 名。

ウ 博物館・学校・教育施設等に対する支援

事業内容：各地の博物館、学校、教育施設等に対して、必要な援助・協力を実施する。

主な支援事業

(a)令和元年 6 月 16 日(日)、京都市青少年科学センター『自然観察教室・大文字山の地学』の指導に協力。

(b)令和元年 10 月 27 日(日)、「きょうと地域創生府民会議協賛事業」として『桂川でかわらの石観察研究会』を実施。

(c)令和元年 10 月 26 日(土)～11 月 17 日(日)、「府庁界限まちかどミュージアム」事業に参加。

(d)令和元年 11 月 16 日(土)・17 日(日)、「第 17 回関西文化の日」事業に参加。

(e)令和 2 年 1 月 22(水)～3 月 22 日(日)、「第 24 回京都ミュージアムロード」の参加。

3 月 8 日(日)、『大文字山“石”見て歩き』は新型コロナウイルス拡大防止のために中止。

(f)令和 2 年 3 月 1 日～3 月 31 日、「京都市伝統産業の日 2020」事業に参加（きもの着用の方入館料無料）。

エ 鉱物・岩石・化石等の鑑定

事業内容：鉱物、岩石、化石等の標本を鑑定する。肉眼鑑定のほか、必要があれば顕微鏡を用いた観察、X線粉末回折装置、走査型電子顕微鏡（SEM）及びエネルギー分散型X線電子銃（EDS）を用いた分析を行い、機器分析や試料の調整を要する場合は費用を徴収した。

平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日の、肉眼鑑定・分析等・相談件数は約 300 件。

オ 地学に関する研究奨励事業

【益富地学賞】

事業内容：地学や地球科学に関する研究の奨励を目的として『益富地学賞』を贈呈した。研究部門・標本部門・写真部門・『地学研究』論文部門・産経新聞特別賞を設け、それぞれの部門について表彰した。

当年度は、全部門に総計 26 点の応募があり、令和元年 12 月 22 日の審査委員会により、応募研究の中から 8 点が受賞した。

研究部門：優秀賞『断層の研究』伊藤はるな（副賞 3 万円）、科学奨励賞 1 名、審査員長特別賞 1 名、標本部門：優秀賞 1 名、写真部門：優秀賞 1 名、特別賞 1 名、『地学研究』論文賞 1 名、産経新聞特別賞 1 名。

【『地学研究』の発行】

事業内容：地学の振興や研究の奨励を目的として、研究発表誌『地学研究』を 1 回（合併号）を発行した。

第 65 巻 3・4 号（総頁数 128 頁）。発行部数各 550 部。

日本地学研究会会員・地学関係教育機関等へ頒布。

【その他の研究奨励事業】

(a) 日本地学研究会の運営

事業内容：地学および地球科学に関する研究の奨励と、地学に関する研究を志す者への支援を目的とする。会員は当法人が発行する研究発表雑誌『地学研究』誌上で研究成果等の発表を行うことができる。年会費は一般会員：8,000 円, 団体会員：10,000 円。益富地学会館展示室への入館料免除、イベント参加費用割引、分析依頼費用割引などのサービスがある。平成 30 年度末現在の会員数 303 名(内団体会員 10 団体)。

カ 鉱物鑑定検定と鉱物鑑定士の認定

次の事業は、鉱物に関する知識や、鉱物の鑑定能力を向上させることを目的とした事業であり、共通の目的を達成する手段と位置付けられる。

【鉱物鑑定検定の実施】

(a) 平成 31 年 4 月 27 日～29 日：3 級・4 級・5 級・6 級・7 級・8 級

大阪会場（石ふしぎ大発見展・第 25 回大阪ショー）で実施。

3 級：受検者 2 名、合格者なし。4 級：受検者 4 名、合格者 2 名。

5 級：受検者 10 名、合格者 5 名。6 級：受検者 15 名、合格者 6 名。

7 級：受検者 24 名、合格者 22 名。8 級：受検者 34 名、合格者 34 名。

(b) 令和元年 6 月 9 日：3 級・4 級・5 級・6 級

東京会場（上智大学）で実施。

3 級：受検者 3 名、合格者なし。4 級：受検者 4 名、合格者 2 名。

5 級：受検者 4 名、合格者 3 名。6 級：受検者 16 名、合格者 4 名。

(c) 令和元年 8 月 25 日：3 級・4 級・5 級・6 級・7 級・8 級

名古屋会場（第 41 回名古屋ミネラルショー）で実施。

3 級：受検者 6 名、合格者 1 名。4 級：受検者 3 名、合格者 1 名。

5 級：受検者 4 名、合格者 3 名。6 級：受検者 11 名、合格者 7 名。

7 級：受検者 15 名、合格者 15 名。8 級：受検者 28 名、合格者 26 名。

(d) 令和元年 10 月 12 日～14 日：3 級・4 級・5 級・6 級・7 級・8 級

京都会場（石ふしぎ大発見展・第 31 回京都ショー）で実施。

3 級：受検者 5 名、合格者なし。4 級：受検者 6 名、合格者 2 名。

5 級：受検者 1 名、合格者なし。6 級：受検者 11 名、合格者 4 名。

7 級：受検者 6 名、合格者 5 名。8 級：受検者 15 名、合格者 14 名。

(e) 令和元年 12 月 15 日：7・8 級

東京会場（第 28 回東京ミネラルショー）で実施。

7 級受検者 60 名、合格者 56 名。8 級：受検者 67 名、合格者 66 名。

【鉱物鑑定士及び鉱物鑑定士補の認定】

鉱物に関する知識の普及や野外活動の講師など、指導者の養成を目的として、鉱物鑑定士及び鉱物鑑定士補の認定制度を設ける。

(a) 認定資格・認定基準：鉱物鑑定士は、鉱物鑑定検定の 1 級から 3 級までに合格し、定められた基準に達し、定められた認定料を納めたものに当法人が認定した。鉱物鑑定士補は、鉱物鑑定検定の 4 級から 9 級の合格者で、認定料を納めた者について当法人が認定した。ただし、8 級・9 級については認定料を無料とする。

平成 31 年～令和元年度の認定者数は、2 級 0 名、3 級 0 名、4 級 4 名、5 級 6 名、6 級 14 名、7 級 38 名、8 級 144 名、9 級 4 名。

令和元年度までの認定者数は、1 級 12 名、2 級 5 名、3 級 40 名、4 級 31 名、5 級 39 名、6 級 89 名、7 級 364 名、8 級 1560 名、9 級 72 名。

(b) 認定料：別に定めた料金表に従い、認定料を徴収した。

【講習会及び研修会の開催】

事業内容

(a) 鉱物鑑定検定（6 級～8 級）の前に、鑑定の技能向上の為の講習会を実施。

【鉱物鑑定に関する知識の普及】（ストーンサークルの発行）

事業内容：鉱物鑑定士制度の普及を図ることや、鉱物鑑定に関する知識を広げることが目的として、情報誌『ストーンサークル』を 2 回発行。配布対象は主に鉱物鑑定検定受検者で、無料で送付。

公 2 地学の振興を目的とする鉱物、岩石、化石等の展示会の実施

(1) 趣旨（目的）

地学の振興を目的として、“石”をテーマとした『石ふしぎ大発見展』と称する展示会を開催した。この目標を達するため、次の一連の事業は、目的を達成する手段と位置付けられる。

(2) 事業内容

広く一般に地学や地球科学の魅力、楽しさ、重要性、知識を普及するには、鉱物や化石などの実物に実際に触れる機会を設けることが最も効果的と考え、この展示会の目的や趣旨に賛同する出展者を募り、国内外より鉱物や化石などの実物を一堂に集め展示する。毎回テーマを変えた特別展示企画、専門家による講演会、地学に関連した体験型のイベントなどを実施する。

1. タイトル：石ふしぎ大発見展 2019・第 25 回大阪ショー

開催日時：平成 31 年 4 月 27 日(土)～4 月 29 日(月・祝)、10 時～18 時（最終日は 16 時）

会場：大阪天満橋 OMM ビル 2F

ア 特別展示

事業内容：『日本の国石を決める！ーバラエティーに富んだ石たちー』

2016 年に日本鉱物科学会で選定された「国石」をテーマに、国石に選定された『ひすい』を中心に、日本を代表する鉱物や岩石を展示した（一般社団法人日本鉱物科学会共催）。展示コーナーには展示解説員数名を常駐させ、来場者に対して展示解説を実施。入場は無料。特別展示入場者のべ約 7500 人。

イ 学術講演会

事業内容：地学や地球科学に関するテーマについての次の講演会を行う。

『地球の営みを「露頭」から読み解くー各地の奇岩・絶景露頭を巡るー』：石橋 隆（益富地学会館研究員）

『いろ色な糸魚川ヒスイの色 ～白・灰・緑・紫・青・黒～』：小河原孝彦（フォッサマグナミュージアム学芸員）

『国石「ひすい」～バラエティーに富んだ鉱物の国～』：土山 明（立命館大学客員教

授・日本鉱物科学会前会長)

参加費は無料。参加者のべ約 350 名。

ウ イベント

事業内容：地学や“石”に関連した体験型のイベントを実施する。

時をかける雲母（参加費：800 円）

参加者のべ 292 名。

エ 鉱物・岩石無料鑑定会

事業内容：鉱物・岩石標本などの無料鑑定会を行う。

鑑定費用は無料。参加者 70 名。

オ 鉱物・岩石・化石などの出展者展示コーナーの運営

この事業の目的である、広く一般に地学や地球科学の魅力、楽しさ、重要性、知識を普及するために、鉱物や化石などの実物を実際に触れる機会を設けるという趣旨に賛同する出展者が展示するコーナーを運営した。会場を借り、休憩所、通路、照明など展示会のインフラ整備を行い、また、必要に応じて警備員や運営スタッフを配置した。

なお、展示コーナーの一部（総床面積の概ね 3 割程度のスペース）は、この展示会の趣旨に賛同する出展者に対して席貸し、出展料を徴収しているが、当該取組は展示会事業をはじめ当法人が行う公益目的事業を行うための財源を確保するための収益事業（収 2 事業）として整理している。この催し全体の総入場者のべ約 24000 人。

カ パンフレット・展示解説の配布

事業内容：特別展示の展示解説や会場案内などを掲載したパンフレットを来場者に配布。フルカラー 24 頁。発行部数 6000 部。

2. タイトル：石ふしぎ大発見展 2019・第 31 回京都ショー

開催日時：平成 31 年 10 月 12 日(土)～14 日(月・祝)、10 時～18 時（最終日は 16 時）

会場：京都市勧業館・みやこめっせ 1 階展示ホール（京都市左京区岡崎公園）

ア 特別展示

事業内容：『ミステリアスなアンモナイトの世界』

「アンモナイト」は恐竜時代ともいわれる中生代の海で繁栄した生物で、その生態や進化には謎の多い神秘的な生き物である。この展示では、国内外産のアンモナイト化石の標本を、各地の大学や博物館所蔵のコレクションから選りすぐって集めて展示した。

展示コーナーには展示解説員数名を常駐させ、来場者に対して展示解説を実施。入場は無料。特別展示入場者のべ約 8000 人。

イ 学術講演会

事業内容：地学や地球科学に関するテーマについての次の講演会を行う。

『鍵層としてのアズキ火山灰』：横山卓雄（同志社大学名誉教授）＊台風の影響で中止。

『和歌山県で発見された恐竜・スピノサウルス発見秘話』：宇都宮聡（化石研究者・日本地学研究会会員）

『アンモナイトの遺骸は浮くか沈むか？』：前田晴良（九州大学総合研究博物館教授・日本古生物学会元会長）

参加費は無料。参加者のべ約 250 名。

ウ イベント

事業内容：地学や“石”に関連した体験型のイベントを実施する。

スウィングは水晶の上で（参加費：800円）

参加者のべ367名。

エ 鉱物・岩石無料鑑定会

事業内容：鉱物・岩石標本などの無料鑑定会を行う。

鑑定費用は無料。参加者68名。

オ 鉱物・岩石・化石などの出展者展示コーナーの運営

この事業の目的である、広く一般に地学や地球科学の魅力、楽しさ、重要性、知識を普及するために、鉱物や化石などの実物を実際に触れる機会を設けるという趣旨に賛同する出展者が展示するコーナーを運営した。会場を借り、休憩所、通路、照明など展示会のインフラ整備を行い、また、必要に応じて警備員や運営スタッフを配置した。

なお、展示コーナーの一部（総床面積の概ね3割程度のスペース）は、この展示会の趣旨に賛同する出展者に対して席貸し、出展料を徴収しているが、当該取組は展示会事業をはじめ当法人が行う公益目的事業を行うための財源を確保するための収益事業（収2事業）として整理している。この催し全体の総入場者のべ約20000人。

カ パンフレット・展示解説の配布

事業内容：特別展示の展示解説や会場案内などを掲載したパンフレットを来場者に配布。フルカラー24頁。発行部数6000部。

[収益事業]

収1 施設利用者の便宜を図る物品販売等の利用サービス促進事業

(1) 趣旨（目的）

益富地学会館1階のミュージアムショップ等で、一般的な店舗では販売していない野外活動用品や研究・観察用具・地学関連書籍等を販売し、当会館の利用者に便宜を図ると共に、公益事業の財源にあてる収益を得ることを目的とする。

(2) 事業内容

売店等で観察用品、野外活動用品、書籍、地学標本等、地学関連商品の販売を実施。サービス提供の対象者は特に限定せず、当施設の利用者のみでなく、インターネットを利用した通信販売も実施した。

(3) 実施方法

ミュージアムショップの運営については、商品の仕入れ、販売など、すべての業務を当法人の職員が行い、業務委託は行っていない。ミュージアムショップの営業時間は、午前10時から午後5時の間である。

収2 地学の振興を目的とした展示会における貸席事業

(1) 趣旨（目的）

公2事業の展示会、『石ふしぎ大発見展2019・第25回大阪ショー』及び『石ふしぎ大発見展2019・第31回京都ショー』において、展示スペースの一部（総床面積の概ね

3割程度)を小間にし、この展示会の趣旨に賛同する出展者に対して席貸することで、展示会の運営費用の一部と、この法人の公益目的事業等に必要な財源を確保することを目的として実施した。

(2) 事業内容

この法人の公益目的事業として開催する、『石ふしぎ大発見展』において、展示スペースの一部(総床面積の概ね3割程度)を小間にし、この展示会の趣旨に賛同する出展者に対して席貸した。出展対象者は特に設けないが、出展物は地学に関するものに限定した。出展料は、小間の大きさや設営に掛かる費用によって徴収した。第25回大阪ショーの出展数246件、第31回京都ショーの出展者数234件。この展示会において、当法人は展示会全体の運営管理を行っており、警備に関してのみ警備会社に依頼した。

(3) 展示会の概要

(a) 展示会の名称：石ふしぎ大発見展 2019・第25回大阪ショー

・会場：大阪天満橋 OMMビル2階展示ホール(大阪市中央区大手前)

会場の延床面積は4055平米

・開催日時：平成31年4月27日(土)～4月29日(月・祝)、10時～18時(最終日は16時)

(b) 展示会の名称：石ふしぎ大発見展 2019・第31回京都ショー

・会場：京都市勧業館・みやこめっせ1階展示ホール(京都市左京区岡崎公園)

会場の延床面積は3800平米

・開催日時：令和元年10月12日(土)～14日(月・祝)、10時～18時(最終日は16時)

以上